

福 井 県

～県立高等学校再編整備計画（案）～に関する 県民パブリックコメント意見募集の結果

平成21年 3月25日
福井県教育庁教育政策課

今回、「県立高等学校再編整備計画（案）」に関し、県民の皆様の御意見を募集したところ、次のような御意見をいただきました。

御意見をお寄せいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

なお、この公表に当たり、取りまとめの都合上、御意見と県の考えを案件ごとに集約させていただきます。

また、併せて、いただいた御意見の一覧を公表させていただきます。

今後は、いただいた御意見を踏まえて、今年度内に「県立高等学校再編整備計画」を策定したいと考えております。

- 1 募集期間 平成21年2月20日（金）～平成21年3月6日（金）
- 2 提出数 95名 127項目
- 3 提出された意見等の概要および県の考え方 別紙のとおり

県立高等学校再編整備計画（案）に関するパブリックコメント意見募集の結果

I 県立高等学校再編整備の基本的方針について

1 適正な学校規模・配置について【9項目】

No.	意見の概要	県の考え方
1	<p>県立学校の再編を進めるに際しては、単に学校の生徒数や学級数などの規模だけで再編を考えないようにして欲しい。一人ひとりに目が行き届いていねいな教育ができる小規模学校には小規模ならではの良さがあるのではないかとと思う。</p>	<p>再編整備においては、教育活動の活性化を図ることが、大きな目的の一つです。</p> <p>生徒一人ひとりがその能力や適性、興味・関心や進路に応じて選択し、主体的に学習できるよう、特色ある学校づくりを推進し、選択幅のある教育課程の編成など、一人ひとりの目標を大切に学習環境づくりを推進していく必要があります。</p> <p>また、学校行事や部活動など学校の諸活動に生徒たちが主体的に参加し、活発にできるような環境づくりを進めていく必要があります。</p> <p>そのためには、活動の主体である生徒と、それを支える教員を一定数確保していく必要があります。学校規模については、様々な視点から検討を重ねた結果、1学年当たり学級数は、4～8学級が望ましいと考えています。</p>
2	<p>全県の全日制高校の平均学級規模が36人程度になっている。これを根拠に、職業科は30人は確保するとしつつも、適正な学級規模を36人とした。なぜ、普通科も含めて「30人学級」を展望しないのか。</p>	<p>1学級当たりの生徒数は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（標準法）」により、40人が標準とされており、各都道府県においても、この数を標準としています。</p>
3	<p>現在の法律では、3年分の募集定員を基に教職員の数が決められる。国の基準は40人学級なので、福井県独自に少人数学級を進めると、学級数は減らないのに教員が減るという矛盾が生じる。この点については、どの学校現場からも悲鳴のような切実な声が出されている。国の責任による30人学級を求めたり、県独自の措置を充実させるなど、矛盾解消にふれていないのはなぜなのか。</p>	<p>本県では、これまでも、募集定員については、40人ととられず、普通科は36～38人程度、その他の学科は30～35人程度とするなど、柔軟に対応してきました。</p> <p>また、高問協答申においても、こうした少人数学級編制の取組みを引き続き推進することが求められています。</p> <p>こうしたことから、計画案においては、1学級当たりの生徒数は、普通科は36人程度、その他の学科は30～35人程度を基本とすることとしました。</p>
4	<p>日本の学校は1学級当たりの生徒数が多いと思う。欧米では20～25人規模が多いらしく、それと比較しても35、6人は多いと思う。特に子供たちが多様化している現在の状況を考えると、少人数教育が求められるのではないかと。職業系学科の教育ではなおさらかと思う。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
5	<p>再編計画では、現在1学年3学級の学校があるところから再編を進めるとしている。高問協では、教育的効果を上げるには一定規模が必要だという前提で議論された。新たな学校をつくる場合には、この考えは十分に理解できるが、小規模校は統廃合するという基準にして良いのだろうか。学校が統廃合されると言われる中で希望者が減るのは当然であり、その小規模校に責任があるなどとは言えない。</p>	<p>1学年3学級以下の高校では、標準法によって教員定数が決まるため、どうしても教科選択の幅が狭くなります。また、生徒会活動、部活動などの特別活動においても様々な制約を受けます。このほか、PTA活動、同窓会活動などにも影響が及ぶ傾向があります。全国のほとんどの都道府県が、再編に当たり適正規模を4～8学級にしている根拠ではないかと考えます。</p> <p>小規模校の良さはもちろんありますが、高問協においても、できたら5学級は確保してほしいという意見があったのも、一定規模による活力や長所を大切にしたいとの考えからです。</p>
6	<p>高問協では、小規模校のデメリットとして、「科目選択数の数」と「部活動の数」があげられたが、選択科目数の幅は学校規模によるものだろうか。カリキュラム(教育課程)の問題であり、大規模校の普通科と小規模校の職業高校の科目選択を比較しても全く意味がない。</p> <p>部活動の選択幅は広いに越したことはないが、統廃合の理由にはならないのではないかな。</p>	
7	<p>「1学年4～8学級」という学校の「適正規模」について、これは、事実上の「学校統廃合の基準」となっている。1学年3学級を理由に機械的な統廃合を進めるべきではない。</p>	
8	<p>「少子化で中卒生の減少」「高等学校の小規模化」で再編・統廃合するのは、公教育の縮小・切り捨てにつながる。</p> <p>少人数だから学校に元気がなくなるとは限らない。小規模でも元気に、学習はもちろん、学校行事・部活動を行っている学校は県内外にいくらかでもある。むしろ、小規模の方が一人ひとりにゆきとどいたきめ細かい指導がより可能で、同時に教職員集団の共通理解が図りやすく、チームとしての教育効果が大きいと言える。</p> <p>多様な科目設置ができないのは財政効率を優先して、小規模校であっても多様な教育を保障する予算や教職員配置などの条件整備に配慮をしようとしなからである。</p>	<p>急速な少子化は本格的な人口縮小社会をもたらしますが、後期中等教育の在り方も絶え間のない改革が必要と考えます。</p> <p>このような状況の中、高校における運動部加入率という一つの指標をとっても、学校規模との間に大きな相関関係があります。</p> <p>活力と魅力のある高校を創りだしていくためには、1学年4学級から8学級程度を適正規模とし、この適正規模を維持するためにも、可能な限り、1学年当たり5～6学級程度の学級規模を確保することが重要であると考えます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
9	<p>本県は高校などへの進学率が高く、高校教育が普遍化して来ているので、近い将来には、普通高校においても、少人数学級30人を標準として、きめ細かい教育が必要になるとされる。したがって平成34年3月の中学卒業見込み数7,208人に対して、私立高校との関係を考慮しても県立高校30校は決して多いとは言えない。</p>	<p>現在の全日制高校の配置は、昭和62年の武生東高校の開校、平成3年の三国高校川西分校の廃止以来継続していますが、この間の生徒数の減少に対しては、1学級当たりの生徒数や1学年当たりの学級数を減らすことで対応してきました。</p> <p>しかし、今後も生徒数は減少傾向にあり、学級数や定員数の削減で対応することが困難な学校もあります。</p> <p>学校の活力を維持し、教育内容の充実を図る上では、適正な学校規模・配置を確保することは重要であると考えます。</p>

2 職業系専門学科の再編整備について

(1) 総合産業高校、拠点校について【21項目】

No.	意見の概要	県の考え方
10	<p>世間の状況を考えると、高校のときから職業が考えられることが重要と思う。今、総合産業高校と拠点校に再編しようとしているが、中学生にとって、将来の目標をもって進学する意味ではよい試みだと思う。</p> <p>高校側も、具体的にどういうことを学び、どういう資格をもち、どういう道に進めるのか、ということを確認にし、生徒と先生が同時に目的意識をもって、将来に望んでほしい。</p>	<p>生徒が適切な進路選択をすることができるように、各高校は、学校説明会や学校見学会、学校案内のパンフレット、ホームページ等の内容を一層充実するなどして、生徒・保護者・中学校に対し、学校選択に当たって必要な情報等を積極的に提供しています。</p> <p>また、高校においても、キャリア教育をより充実させていきたいと考えています。</p>
11	<p>景気の悪化や産業構造の変化に伴い、学校で学ぶ内容も変化しなければならないと思う。そういう意味で、社会のニーズに応じた「総合産業高校」の構想には期待が持てる。</p>	<p>社会のニーズが多様化する中、「総合産業高校」が職業教育への期待に十分応えらるとともに、生徒たちが意欲を持って主体的に学び、自信とプライドを持って将来社会へ巣立っていくことができる教育環境を提供していきたいと考えます。</p>
12	<p>高校へ進学する人生の意味さえ理解せずに進学し、高校での違和感を持ちながら3年間を過ごす生徒が多いことに驚いている。</p> <p>したがって、高校再編を契機に大改革を断行すべきだと考える。整備計画でも出されているが、総合産業高校の設立は必要なことだと考える。</p>	
13	<p>一次・二次・三次産業から情報化社会への移行に対して総合産業高校の設置と新しい学科の設置は必須の課題である。職業系は入学に際して生徒が多様な選択ができるようにすべきであると思う。</p>	<p>御指摘のとおり、これからの高校生にとってどのような教育環境が望ましいかについて、生徒への教育効果を主体にして考えていきたいと思えます。</p>
14	<p>「拠点校」から除かれた水産・家庭・福祉学科では、農・工・商に比べ、専門的に深く学ぶことが保障されないのだろうか。</p>	<p>計画案は、高問協答申を踏まえ、農業、工業、商業科について、それぞれの分野に特化した拠点的な専門高校を配置することとしております。</p>
15	<p>職業系専門学科の再編整備案では、拠点校となる専門高校の配置が述べられている。この中に、農業、工業、商業の3分野について県内に1校は配置するとなっているが、林業および水産分野は3つのどの範疇にも入らないのか。</p>	<p>これら以外の学科についても、各地区において、総合産業高校の設置等、職業系専門学科の具体的な在り方を検討する中で、それぞれの学科の持つ専門性の確保を図っていきたいと考えています。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
16	<p>高問協の答申の中に書かれている、併設校の専門学科は専門性が薄れるというのは間違いである。検定の取得状況は、単独商業高校とひけをとらないばかりか、逆にいい成績を上げていると思う。その他の商業活動も同様である。</p>	<p>職業系専門学科の再編を進めるに当たっては、県内各地域の実情に配慮しつつ、生徒や社会の多様なニーズに対応し、実践的な学習が行えるような、望ましい職業系専門学科の在り方を検討していきます。</p>
17	<p>坂井・福井地区の再編に関して、農業高校の1校を拠点校、もう1校を総合産業高校にということだが、地域的範囲が広い。いくつかの職業高校や併設されている学科をまとめて総合産業高校にできるのか。時間をかけて検討すべきではないか。</p>	<p>計画案においては、福井・坂井地区の再編整備は第2次実施計画(平成22～25年度)において実施することとしております。</p> <p>今後、地域の実情等も踏まえて、再編整備の具体的内容を検討していきたいと考えています。</p>
18	<p>職業高校の拠点校には福井県立大学のエクステンションとしての機能を持たせてほしい(エクステンションとは、教育や研究の成果を地域や民間企業に対して一般化し、広く、教育していく組織)。より専門的な知識を持つ大学が、より地域と密接している高校と結びつくことにより、農業、水産をはじめ工業や商業に関する基礎的な知識から応用までを地域に対して発信・提案することができる。</p>	<p>高問協答申においては、今後の職業系専門学科の方向性として、大学や地域産業界との連携強化の必要性がうたわれております。</p> <p>御指摘の大学等のエクステンション機能の必要性については、今後ますます重要な課題となってくると考えられ、再編整備を行う上でも十分検討していきます。</p>
19	<p>高問協では、現在の職業教育について、「社会のニーズや学習内容と進路・職務内容にミスマッチがある」「学ぶ意欲があり学びたい分野がはっきりしている生徒と、高校において自分の能力・適性を見いだそうとする生徒の学習ニーズへの対応」という点から出発し、高問協答申や再編計画の「拠点校と総合産業高校」という考え方に帰着していく。しかし、この現状把握と解決の方向が、本県の職業教育の中心課題なのか疑問である。</p>	<p>営業や経理などの求職が少なくなる中、大学への進学率が高まっています。また、第一次産業に就く生徒も少なくなる一方、製造業では技術革新が著しい状況です。</p> <p>このような社会構造の大きな変化の中、職業系専門学科の在り方が問われており、高問協でも、この点への対応の重要性が強調されました。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
20	職業高校を再編する基本的考え方は「拠点校と総合産業高校」であるが、職業教育の差別化につながらないのだろうか。	少子化が急速に進む中、単に複数の学科を統合するだけではなく、それぞれの学科の優れた特色を一つの学校に集め、新しい職業高校を作っていくことが「総合産業高校」の考え方です。
21	拠点校と総合産業高校は、専門職業教育の内容で差別と選別をはかるものである。拠点校が農・工・商の各1校だけであとは総合産業高校でよいとすること自体が、専門職業教育の大幅な解体・縮小、切捨てである。	さらに、県下の職業系学科を継承し、それぞれの学科のセンター的役割を果たす、職業系専門高校の拠点校化が必要と考えました。 こうした新しい学校を発展させるため、それぞれの学科の特徴や地域の意見を取り入れながら、職業系高校としての専門性の確保を図り、全国に誇ることのできる福井県独自の学校づくりを進めていきたいと考えています。
22	たった3校のみの拠点校以外をすべて総合産業高校にしてしまうことは公教育の責任放棄と教育の差別・選別のみならず、公教育による地域格差と差別、交通費や住居費の負担などによる経済的格差と差別を持ち込むことである。	また、再編整備により、生徒の通学に支障を来たすことがないよう、路線バスの増便など、公共交通機関の利便性向上を働きかけるとともに、必要に応じて、スクールバスの運行等も検討したいと考えています。
23	目的意識を持つ生徒は「拠点校」、そうでない生徒は「総合産業高校」と分けることは、職業教育の差別化につながる。	
24	「拠点校」に希望者が集中すれば、競争の激化と高校の序列化につながる。	
25	在住する地域の学校を選ばず、「拠点校」に通うことになれば、遠距離通学が増える。一方、地理的・経済的な理由などで「通えない」生徒も出てくると考えられ、職業教育の格差を助長することになる。	
26	もともと福井県は、職業科と普通科を併設する学校が多く、高校数も決して多くない。機械的に職業学科を集めた学校をつくるのが、地域の状況になじむとは思えない。「拠点校」「総合産業高校」の設置を進めるのは、見直すべきと考える。	

No.	意見の概要	県の考え方
27	<p>再編計画では、総合産業高校では「総合選択制を導入します」となっている。現在の職業高校においても、学科内でコース制に分かれ異なる科目を選択しているし、進学と就職用の選択科目も設けている。違いは、総合産業高校の総合選択制では「他学科の科目」が含まれていることである。従来との違いを強調すればするほど、専門性が保障されるのか疑問が残る。</p>	<p>総合産業高校は、複数の職業系専門学科を置き、それぞれの専門学科の修得の上に、一定の範囲内で他の専門学科の科目も選択できる「総合選択制」を導入します。</p> <p>これからの社会を考えるに当たり、工業科や商業科の生徒が介護の基礎を学んだり、商業を学ぶ生徒が地域性を考えて工業の基礎を学ぶことも大切になるのではないかと考えます。</p> <p>総合選択制では、生徒全員が一律に他学科の科目も履修するのではなく、生徒のニーズに応じて、専門科目や大学進学向けの科目も選択できるような体制を整えたいと考えています。</p>
28	<p>総合産業高校では進路意識の形成に支障のないようにするとしているが、他の専門学科の選択科目や転科により、系統的な専門教育の内容を保障することがきわめて困難にならざるを得ない。その結果、現行専門職業学科でさえ資格取得に見合う専門単位数確保が厳しい状況であるのに、各学科の専門資格がほとんど取得できなくなり、就職にも進学にも進路先の確保、保障ができなくなり無責任な学習内容となってしまう。</p>	
29	<p>再編計画案では、「奥越の職業学科は総合産業高校に併設」、水産学科は総合産業高校に。「農業は1校を拠点校に」としている。</p> <p>若狭地区に現在ある職業科は、水産・工業・農業・商業である。施設設備等も含めて総合産業高校に併合できるのか。水産の専門教科は(水産高校の)小浜キャンパスで、農業の専門教科は(若狭東高校の)東小浜キャンパスで学ぶようにするというのだろうか。坂井・福井地区の農業や工業においても同様。学ぶ場所が曜日によって違ったり、通学手段・通学費用の問題など、教育環境が低下することはないのだろうか。</p>	<p>遠隔地からの「拠点校」への入学希望は、地元の高校では学べない学科への強い学習意欲に基づくものと考えますが、その学習が実現するよう支援していく必要があると考えています。</p> <p>各学科間の円滑な連携を図るため、校舎や実習施設は、可能な限り同一敷地内に設置することが望ましいと考えています。</p> <p>また、校舎、設備の改修・新設につきましても、可能な限り各高校の実情に応じて適切に対応していきたいと考えています。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
30	<p>職業系高校を統廃合して総合産業高校を設置することは、結局、県立高校の数を減らすことになり、県高校教育の縮小を招くことになる。総合産業高校の設置の前に次のような施策がとれないか。</p> <p>1)各職業系高校に普通科を併設するとともに校名は産業名を省き、その地域を表すように改正する。</p> <p>2)普通高校にも、できれば何れかの職業系の学科を併設する。</p> <p>こうした改革は、いわゆる中高一貫教育の効果的な活用をもたらすので、地域と高校のつながりも一層深まり、地域、社会からの支援、協力も進むと思われる。今後も高校運営は、県立とはいえ地域の自治体や諸団体の支援、協力が不可欠である。</p> <p>また、職業系学科に入学したが、不本意入学であったので、意欲を出さない、あるいは出せない生徒に対しても普通科が併設されることにより、容易に転科することも可能となろう。それらの生徒に意欲を出させ、もたせるよう工夫する必要があり、換言すれば、地域社会、生徒のニーズに合った高校の体制をつくることが大切である。</p> <p>拠点校においては、他の高校、特に職業系の学科の併設が困難視される高校の普通科の職業実習等を容易に受け入れる体制を強化してゆくことが重要であろう。さらに拠点校であると否とを問わず、職業系学科の担当教職員の社会体験的研修を積極的に進めることが望まれる。</p>	<p>少子化による生徒数の減少、多様化する社会や生徒のニーズに対応するため、より高度な学問や研究、専門性の高い職業を将来の目標に促えて、基礎学力の徹底と学習の発展を目指す普通系高校と、実践的な知識・技術を活用して主体的、創造的なスペシャリストの育成を目指す職業系専門高校の充実を目指しております。</p> <p>またその中で、学科の専門性を究めるとともに、他学科の教科も選択履修でき、生徒の多様な学習ニーズに応え、資格取得や就職、進学に対応できる総合産業高校の設置を考えています。</p> <p>今回の高校再編整備に当たっては、これからの世界を切りひらいていくたくましい生徒が育っていくためにも、御指摘のとおり地域の御支援・御協力が不可欠と考えております。</p> <p>拠点校におきましては、社会のニーズの変化と急速な少子化により改編が避けられない学科についても、極力取り入れていきたいと考えています。</p> <p>校名については、総合産業高校・拠点校を問わず、広く県民のご意見をお聞きしながら、慎重に決めていきたいと考えています。</p> <p>また、教職員の指導力向上等についても、国や県の研究機関とも連携しながら、研修機能の充実・強化などを通して推進していきたいと考えています。</p>

(2)新しい学科の設置について【1項目】

No.	意見の概要	県の考え方
31	<p>県立高等学校再編整備計画(案)の中には、新しい学科の設置も触れられており好感が持てたが、どうしてもものづくりの域から離れていない。たとえば、コンピュータやアニメーション、コンテンツビジネスなどを高校時代から学べる学科や観光やホテルのことを学べるカリキュラムを盛り込んでどうか。</p>	<p>今回の第1次実施計画の奥越地区については、産業構造の転換も踏まえ、地域の産業・観光振興についても学ぶ「総合ビジネス科(仮称)」を新設し、観光分野の学習も取り入れていきます。</p> <p>また、勝山高校普通科に「情報コース」を設置し、地元での就職とともに、理工系・情報系大学への進学にも対応できる次世代の情報活用力を身に付けた人材を育成していきたいと考えています。</p>

(3)各職業系専門学科の在り方について【31項目】

No.	意見の概要	県の考え方
32	<p>食料問題、環境問題、エネルギー問題等、現在世界・日本が直面している課題に、大きな役割を果たすのが海洋である。福井県として、水産業、水産教育の重要性を認識し、それを高校再編に反映していただくことを希望する。</p>	<p>嶺南地区の中学校卒業者は平成27年度以降には急激に減少していくことが見込まれています。そのため、この時期を見据えた学校の配置の検討は避けて通ることはできません。</p> <p>また、御指摘のとおり、農業、林業、水産業の第一次産業の大切さは十分承知しております。総合産業高校に複数の異なる学科があることによって、科目の選択方法によって他の学科の領域も学ぶことが可能となり、学習の幅が広がります。</p>
33	<p>高校教育段階において、農業、林業、水産業の第1次産業を中心に据えた教育、すなわち農林高校、水産高校を最重点教育としていくことが大切であると思う。</p>	<p>例えば、水産高校の生徒が農業分野に関する科目を選択することによって、食料問題を深く総合的に学習することができ、また、海の環境を守るためには海につながる耕地や森林などの環境の保全が大切であることも体験的に学ぶことができますと考えられます。</p>
34	<p>若狭東高と小浜水産高を統廃合して、現在の農・工・水の特設学科を縮小するというのは、正に時代に逆行していると思う。</p>	
35	<p>水産教育の向上を図り、福井の水産業の将来を担う若者を育ててほしい。福井の漁業の発展のために、水産高校での水産教育の推進、強化をお願いする。</p>	
36	<p>小浜水産高校は、全国で最も長い歴史と伝統を有する水産高校であり、福井県の「宝」である。</p> <p>小浜水産高校は卒業生のみならず、県民にとって「誇り」であり、福井県の「宝」である。生徒に誇りを持たせることはこれからの教育にもよい影響を及ぼすと思う。「宝」を活かすよう充実発展させる方策を検討してほしいと思う。</p>	<p>小浜水産高校は113年の歴史と伝統がある学校です。その間、水産業界をはじめいろいろな分野に有為な人材を輩出してきました。</p> <p>再編整備に当たっては、同校の長年培ってきた伝統や教育のノウハウを生かして、生徒の学習指導や生徒指導、学校運営ができるよう、望ましい在り方を検討していきます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
37	<p>水産というと、従来は漁業との関連を考えがちだが、海の環境保全や海洋資源の開発なども含めた幅広い専門性をもたせることが必要であると思う。小浜水産高校においては、福井県で唯一の水産・海洋高校という特色を生かして、マリンスポーツなどを含めて、もっとより広く海洋系の分野を取り入れた教育内容が必要かと思う。</p>	<p>計画案においては、嶺南地区の再編整備は第2次実施計画(平成22～25年度)において実施することとしています。</p> <p>今後、具体的な検討を進めるに当たり、教育課程等を考える中で、今回いただきました御意見も十分に参考にしていきたいと考えます。</p>
38	<p>整備計画案中の再編整備の必要性(P1) 「こうした高い進学志向に加えて、近年の社会情勢の著しい変化は、高校で学ぶ生徒の生き方や考え方に様々な影響を与え、生徒の興味・関心等が多様化する一方で、不本意入学等により学習意欲に乏しい生徒、不登校経験のある生徒など、様々な課題を抱える生徒が増加し」について、一般論としては妥当な文書と考えるが、小浜水産高校については、あてはまらない部分が多い。</p> <p>小浜水産高校では、優れた教師陣、教育カリキュラムにより、不本意入学者であっても、水産分野に関する興味、関心を引き出し、すばらしい成果を生んでいる。</p>	<p>御指摘のとおり、小浜水産高校は、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行い、大きな成果をあげています。</p> <p>総合産業高校として、1学年当たりの学級数を4～8学級にすることによって学校として活力が増し、小浜水産高校での成果をさらに高めることにもつながると思われまます。生徒たちが多くの友人と切磋琢磨することによって自己の能力を発見したり、能力の伸長につながります。</p> <p>生徒がよりよい環境で、高校生活を送り、より充実した高校教育を受けることができるように再編整備計画を進めていきます。</p>
39	<p>小浜水産高校には、がんばっている先生方や生徒さんがいる。また、点数や偏差値だけでなく、未来をみすえて真の優秀な人材を育成する真の教育こそが県を豊かにするのではないかと思う。そのためにも、高校生の子たちが自由に夢に向かって進学や就職を出来るような体制づくりを考えてあげてほしい。</p> <p>大人の都合で、未来ある高校生の子たちがふりまわされるのはかわいそうである。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
40	<p>全体的には、総合産業高校の設置等、その趣旨・方向性については同感であり、賛同するが、水産系高校については、以下の理由により、別途今後の在り方を検討することが適切と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本有数の歴史伝統を持つ高校である ・先進的な研究開発を行っており、全国的に認知されている ・アマモ定植活動等、地域における環境活動の代名詞となりつつある ・オリンピック選手を輩出する等、スポーツ面でも全国レベルの顕著な成績をあげている ・小浜市民の心のよりどころとなっており、地域の食育活動等にも多大な貢献をしている ・県立大学小浜キャンパスをはじめ、県の機関等とも至近距離にあり、こうした研究拠点と一体的整備を図ることが水産業の振興発展にとって重要である 	<p>御指摘のとおり、小浜水産高校では、いろいろな特色ある取組みを実施し、全国的にも認められています。</p> <p>これらの取組みは、総合産業高校における水産に関する学科で継続していきます。</p> <p>また、総合産業高校となることによってこれらの取組みは充実発展することが考えられます。例えば、環境教育につきましては、水産系以外の学科の生徒への啓発となり、取組みが広がるものと考えられます。また、部活動につきましても部員数が増える中で切磋琢磨し、レベルアップにつながるものと考えます。</p> <p>今後、具体的に再編整備計画を進める中で、現在、各学校が行っている特色ある取組みを充実発展するよう検討したいと考えます。</p>
41	<p>小浜水産高校におけるエチゼンクラゲの利用や宇宙食の開発などは、高校生のユニークな発想を生かし、生徒のやる気を触発した事例といえる。このような新しい教育活動は、公立高校の職業教育における一つのモデルであると同時に、全国の高等学校における水産教育のあり方を示しているものである。水産海洋教育における教育改革の萌芽を県立高校再編の中でつぶすことなく、継承するためのスタッフと施設が確保されるべきと考える。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
42	<p>計画案に、「既存の職業系専門学科を持つ県立高校の再編統合により、複数の異なる職業系専門学科を併設する「総合産業高校」を設置する」とあるが、小浜水産高校の立地条件を勘案すると、総花的なコース設置により、水産系の学問を深く、また実地に専門的に勉強できるという特色が打ち消され、埋没する可能性が高い。</p> <p>総合化するよりも、周辺の研究環境等を活用し、専門的に特化させることの方が、小浜水産高校を活かせる可能性が高い。</p>	<p>少子化が急速に進む中、単に複数の学科を統合するだけではなく、それぞれの学科の優れた特色を一つの学校に集め、新しい職業系の専門高校を作っていくことが「総合産業高校」の設置目的です。</p> <p>再編整備に当たっては、地域の意見を取り入れ、それぞれの学科の特徴や専門性を継続発展させながら、全国に誇ることができる福井県独自の学校づくりを進めていきたいと考えています。</p>
43	<p>水産科については、総合産業高校では、複数の学科を担当することになり、各学科に適した学校運営が難しいと思う。特色を活かし、生徒にとって魅力のある学校にするためには、水産単独高校が望ましいと思う。</p>	
44	<p>県を北から南へと走る海岸線を持つ福井県にとって、水産業とそれに伴う水産教育は非常に重要であると考え。生徒の数が少なくなっていくことで、安易に統廃合するのではなく、特色ある教育をもっと発展させる観点からも、小浜水産高校は単独で残してほしい。</p>	
45	<p>総合産業高校の一学科程度の規模では、海洋という自然環境を教育の現場としている水産教育には十分に対応できないと考える。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
46	<p>水産・海洋教育については、その特殊性もさることながら、21世紀の課題に十分応えられる将来性をも考慮し、せめて準拠点校のような形で充実・発展を図っていただきたいと強く要望する。</p>	<p>嶺南地区における再編整備は、第2次実施計画(平成22～25年度)の中で行うこととしており、その中で、学校の施設、設備の取扱い等を含め、水産・海洋教育の在り方などについても検討します。</p> <p>特に、水産科については、県内で唯一の学科であることを念頭に、検討を進めていきます。</p>
47	<p>水産高校の持っている独特な教育、訓練は他の高校にはない。生徒数が年々減少しているなどの理由で、統合という名において専門部分を縮小し、水産高校自体を消滅させるかもしれないというのはいかがなものかと思う。でも、もしも再編という事になるならば、水産が持っている技術を川、湖、海の自然保護に生かしたり、それに関連した教育などを採用して今後の人材を育成するようになればと期待する。</p>	<p>生徒がよりよい環境で、高校生活を送り、より充実した高校教育を受けることができるように、今までの学科の特徴を継続発展させていきたいと考えています。</p>
48	<p>小浜水産高校は、同校以外に専門プログラムを持つ高校がないので、従来から拠点校的な役割を果たしてきた。したがって、規模などの点から高校自体の存続は不可能であるにせよ、学科あるいはプログラムを拠点並みに取り扱うことが、他の分野の職業教育拠点校とのバランスの点からも必要かつ妥当であると考えます。</p>	
49	<p>総合産業高校構想で各専門学科の校舎をどうするのか。それぞれ多額の県費を投入していて、水産校舎は海に近いから意義がある。校舎まで統合することには反対する。</p>	
50	<p>本来であれば、単独での水産高校の存続を願っているが、それが困難ならば、嶺南での総合産業高校の拠点校もしくはそれと同等の機能を持った状態での存続を希望する。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
51	若狭地域では、美しい海洋自然を活用して、民宿を含めた様々な観光漁業が盛んに行われるようになって来ている。このような時勢だからこそ、水産高校の教育に期待するところ大である。	総合産業高校の設置に当たっては、地域の産業を担い、地域に根ざす人材育成を目標に、生徒がプライドを持ち、地域と共生し、活力ある学校を目指していきます。 このためには、学校で学んだことを十分に生かし、地域で活躍できるよう、産業界をはじめ地域の方々のバックアップをいただくことも重要であると考えます。
52	生徒数減少や経済効率ということで、いたずらに学校の統廃合をするのは後世に禍根を残すことになりかねない。ただでさえ嶺北と嶺南の格差が厳然としてあり、これ以上の地域間格差を大きくしないでほしい。	再編整備に当たっては、現在のそれぞれの学科の特徴を継続発展させながら、若狭の特色ある歴史や文化を十分踏まえながら進めていきます。
53	食のまちづくりを進める小浜市において、水産業は欠くべからざる職域であり、その教育母体となりうる水産高校の存在は絶対的なものとする。	
54	小浜水産高校は、全国有数の水産系研究拠点である県立大学小浜キャンパス(海洋生物資源学部)に隣接し、県栽培漁業センターとも至近距離にあることから、こうした研究拠点と含め、一体的整備を図ることが、福井県の水産研究、水産業及び関連産業の振興・発展にとって重要である。	高問協答申においては、職業系専門学科の充実に当たっては、大学等の高等教育機関や産業界等との連携強化が重要である事が指摘されています。 今後、嶺南地区における具体的再編整備計画の検討を行う中で、県立大学や研究機関等との連携の在り方をはじめ、学校の施設、設備の取扱い、新しい水産・海洋教育の在り方などについても検討します。
55	日本海側に面した福井県は、すでに中国、韓国、ロシアなどと共に環日本海環境・資源を共有している。水産高校は、小浜キャンパスとともに国際交流を更に深め、地域貢献と、若者の国際化に積極的に貢献できる制度も組み入れてほしい。	
56	小浜水産高校は、県立大学小浜キャンパスの附属高校として残す事を考えていただきたいと強く要望する。	
57	少子化の流れに対応することは止むを得ない所は否めないが、県立大学と連携(附属高化)することで、水産資源研究での国内における重要な人材を輩出できる可能性が見込まれる。また長期的視点のもとで、地域経済の礎となる研究開発を行う教育体制を確立することは市民・県民の利益にかなうものとする。	

No.	意見の概要	県の考え方
58	<p>実習船雲龍丸の利活用については、遠洋3航海を2航海にして、1航海は県および近隣沿海地域の海の環境・資源調査や、県立大学にも利用してもらおうとよい。不足する1航海実習は、民間調査船や、国の調査船などに便乗委託するなど考えられる。県の年間経費削減にも効果があるのではないか。</p>	<p>雲龍丸の利活用につきましては、船員養成を含めた教育課程等の検討を進める中で考えていきます。</p> <p>また、県民の船として、知事部局との連携事業、県立大学との共同活用など、多目的利用の検討も併せて行います。</p>
59	<p>実習船「雲龍丸」は福井県の財産である。経費面ばかりを問われているが、長期遠洋航海で学んだ船上教育は、学生を立派に鍛え社会人としての心構え、即戦力を作り出す最高の教材である。</p>	
60	<p>実習船「雲龍丸」は県民の財産でもある。水産教育の最高の教材ならば、県立大学も利用するなど県民の船として開放していけばよい。</p>	
61	<p>船舶免許の取得・船員養成に関して考慮していただきたい。実習船を用いる教育には船舶の維持費等多額の費用がかかるが、船員養成機能や陸上では得ることのできない経験等多くの教育効果がある。</p>	<p>現在、小浜水産高校の「海洋科学科マリンテクノコース」は、海技士養成施設の指定を受け、船員養成に取り組んでいます。</p> <p>今後、具体的な再編整備計画を進める中で、船員養成を含めた教育課程の検討を進めていきます。</p>
62	<p>船員養成は私企業が行うことは困難であり、本県で船員を養成することができるのは小浜水産高校だけである。福井の命と豊かさをまさに足元で支えている次世代の船員を教育・養成する役割を考慮していただきたい。</p>	

(4)その他【5項目】

No.	意見の概要	県の考え方
63	<p>高校入試の志願者状況を見ると普通科の倍率が職業系を大きく上回っており、職業系の高校では定員割れを起こしているコースがある。また職業系の高校へ行っても推薦で大学進学する生徒がかなり増えてきている。</p> <p>このことを考え合わせると、普通科の定員を増やし職業系の学科を状況を見ながら定員減または廃科していくのが現実に即しているのではないか。</p>	<p>本県の職業系高校は、職業教育の要として、地域の産業を支える有為な人材を育成してきました。職業系高校の重要性は、今後もますます重要になってくるものと考えます。</p> <p>しかし、少子化と産業構造の転換などにより、職業系専門学科の多くが1学科・1学級となり、学科によっては、定員を満たさないものもあります。学科の統合や改編を含め、適正配置・適正規模の推進が喫緊の課題であります。</p> <p>そこで、計画案では、センター的機能を持つ「職業教育の拠点校」の配置と、一定の範囲内で、他の学科の教科・科目を選択履修できる「総合産業高校」の設置を掲げております。</p> <p>今後とも、生徒にとって魅力ある職業教育を推進していきたいと考えています。</p>
64	<p>職業系高校は、普通高校と比べ、劣っているような印象を受けているが、社会に出てから間に合うのは、職業系高校の卒業生で、地元の人に就職してくれる。職業系高校の生徒たちにもっとスポットを当てるような場や活動を増やしてほしいと思うので、計画の中には、そういうことも触れてほしい。</p>	<p>職業系高校の再編整備に当たっては、地域の要請を担い応える学科構成、生徒が誇りを持ち、地域と共生し、活力ある学校(地域に出て、地域を盛り上げる学校)・地域の産業を担い、地域に根ざす人材の育成を図ることを基本に進めていきたいと考えています。</p>
65	<p>高校教育の目的は、平たく言えば、普通教育と職業教育を通して人間的成長をはかることにつきます。学習内容と進路・職務内容のマッチングはあくまで一つの側面ではないのか。</p>	<p>職業系高校の教育は、厳しい技術の習得を通じて、人間としての成長を図るところに大きな特色があります。</p> <p>一般教養とともに実学の側面を重視する時、学習内容と進路・職務内容のマッチングは、再編整備においても避けて通ることのできない大きな課題であると考えます。</p>
66	<p>就職して3年以内の離職率が高いことが何年も前から指摘されている。自分がやりたいことと就職先とのミスマッチがないように、丁寧な進路指導をしていくことは重要。学習したことが生かせるように進路指導していくことも同様。しかし、こうしたことと、職業高校の統廃合は別の問題ではないか。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
67	<p>職業系専門学科の再編整備について、エネルギーの生産地・高いものづくり技術をもつという福井県の特徴を生かし、「地域の産業の将来を担い、地域に根ざす人材の育成を図るための学科構成とすることを基本とすること」には賛成だが、実際に自分が社会に出て、社会人には業務に関する能力以外の総合力も必要だと感じている。</p> <p>多感な時期である3年間を、限られた分野の学習になり、小さな固定観念の中で育てることのないよう、感性豊かな「ひとづくり」を目指し、子供の目線で慎重に進めていただきたいと思う。</p>	<p>職業系専門学科は、専門学科の修得が教育活動の基本になりますが、普通科目の履修やホームルーム、学校祭等の特別活動を大切にすることにより、深い教養に裏打ちされたコミュニケーション能力などの育成を図っていきたいと考えています。</p>

3 定時制・通信制課程の見直しについて【16項目】

No.	意見の概要	県の考え方
68	<p>定時制・通信制課程については、単位制を導入することだが、生徒に時間的制約があることを考えると、大変良い制度であると思う。ただ、生徒は未成年が主となるのではないかと思うので、単位選択にあたっては学校側の丁寧な対応が求められてくると思う。生徒や親が必要と感じられる単位履修プログラムの構築を望む。</p>	<p>定時制・通信制への単位制の導入にあたっては、卒業までに必履修教科・科目を必ず履修することができるよう、各生徒の単位(教科・科目)の選択について、教員が丁寧かつ適切な指導を行うことが重要です。</p> <p>このことについては、単位制導入の際に、定時制・通信制課程を設置する全ての高校において万全の体制がとられるよう、努力していきたいと考えています。</p>
69	<p>「計画案」は、単位制・2学期制を導入する理由として「編入学希望に柔軟に対応する」をあげているが、もともと定時制を希望して入学してくる生徒に対しての教育の保障という視点が抜け落ちている。</p> <p>また、1学年の学級数が少ないため「多様な選択ができる」という単位制の利点も得にくくなる。様々な課題を抱える生徒が多く通う定時制で単位制を実施した場合、単位修得も自己責任とされることで、かえって脱落者が増えかねない。以上の理由から、定時制高校へ一律に単位制を導入する必要はないと考える。</p>	<p>今回の県立高等学校定時制・通信制の再編整備計画は、生徒がよりよい環境で、より充実した高校生活を送ることができる教育環境を提供することを目的としています。</p> <p>従って、定時制を希望して入学してくる生徒に対しての教育の保障は当然のことであり、加えて、編入学希望にも対応できる就学体制を整えたいと考えています。</p> <p>まず、単位制・2学期制の導入により、生徒が単位を修得するためにした努力をしっかりと認め、原級留置による退学をできるだけ少なくすることや、進路変更の生徒に対して年度途中でのスムーズな編入を可能にしたいと考えています。</p>
70	<p>2学期制は、前期で卒業する場合、就職・進学への対応が困難。後期に入学する場合、必要科目の授業が選択できない恐れもある。また、半期ごとの単位認定により教科によっては前期・後期に授業時数が大きく偏り、それを解消するために、授業だけを持つ非常勤講師での対応となることが予想される。そうなれば、正規教員が減り、結局、授業以外の教育活動に支障をきたす。</p> <p>「計画案」では「学級単位の活動が希薄にならないよう」「生徒が9月に卒業する場合の就職や進学の対応」など単位制・2学期制の課題について示しているが、課題の解消については「検討する」としているだけで、あまりにも無責任と言わざるを得ない。</p>	<p>また、学年制のよさを取り入れ、科目の選択にある程度の制約を設け、受講指導を徹底することなどが大切と考えています。</p> <p>さらに、平成21年度からの教育カリキュラムの編成等運用面については、現場の先生方の意見を聞きながら検討を進めていきます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
71	<p>「計画案」では、2010年度より新しい就学体制を開始するとしているが、実質数ヶ月程度の検討期間で教育課程を作成することは困難である。</p> <p>さらに2010～12年度は、学年制(3学期制)・単位制(2学期制)が混在することになる。定期考査や長期休業の時期が異なり、部活動や学校行事等の調整が必要となる。</p> <p>こうした細かな対応を含め来年度中に準備することはできない。また、移行期間は教職員の配置の確保が必要。</p>	<p>教育カリキュラムの編制等、運用面については、現場の教職員の方々の意見もお聞きしながら、進めていきます。</p> <p>また、平成22年度の2～4年生に対しても、単位制・2学期制の導入の可否を検討するとともに、希望する生徒については3年修業の道を開くことも必要と考えています。</p>
72	<p>定時制高校には、経済的に苦しく家計を助けるために働きながら学ぶ生徒が多いのが実態である。こうした子どもの教育を受ける場として夜間部は必要である。</p>	<p>御指摘のように、働きながら学ぶ生徒の教育の機会の確保は重要です。しかし、就労している生徒、夜間制を希望する生徒が減少し、昼間制を希望する生徒が増加しているという現状もあり、高問協答申においても、地域の実情を踏まえながら可能な限り昼間制への移行が望ましいとされています。今後、地域の実情や生徒の志望動向等を踏まえながら、検討を進めていきます。</p>
73	<p>全日制と夜間定時制を併設する高校では、昼間部へ移行することによって校舎・体育館・特別教室などの使用に支障がでることが予想される。</p>	<p>定時制課程の見直しにおいて、校舎・特別教室等の使用については、時間割を調整することで十分対応できると考えます。</p>
74	<p>定時制で唯一の道守高校の夜間商業科を2010年度に募集停止としているが、定通教育においても職業教育の保障は必要。職業科目を単位制で開講しても系統的な学習ができるとは思えない。</p>	<p>生徒数が極端に少なく一定集団での教育活動が困難な学科は、統合等を考える必要があります。また、多様で柔軟な教育システムとするため、単位制を導入し、選択科目等で職業教育を取り入れていきます。</p>
75	<p>単位制導入によって、3学年の収容定員で教職員が配置されるため、学年制の配置に比べ、減ることになる。定時制に入学する生徒数は、1998年以降ほぼ一定の水準を保っているが、生徒と向き合う教員数が減ることになれば充実した教育を行うことができるのだろうか。現状を考えれば、今以上の教職員の確保が必要。</p>	<p>御指摘のとおり、単位制・2学期制の導入等の施策が十分な効果を発揮するためには、実際に生徒の指導・支援に当たる教員の資質向上とともに、適正な人員を配置する必要があると考えています。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
76	<p>1学年1学級40人募集で考えると養護教諭の配置基準を下まわる。「計画案」では、教育相談体制の充実として「専門的知見を持つカウンセラーの導入や養護教諭の適正配置」が記述されているが、果たしてどこまで実行できるのか疑問である。</p>	<p>様々な課題を抱える生徒にとって、教育相談体制の充実は重要な課題であり、積極的に取り組んでいきます。</p>
77	<p>高問協答申では「通学可能範囲に1校は配置」としていた。働きながら学ぶ生徒のためにも現在の学校配置を堅持すべきである。</p>	<p>生徒の通学可能範囲を考慮して定時制等の配置を考えていきます。また、生徒が自分のペースで学習し、社会人として必要な知識を着実に身に付けることができる教育体制を早急に整備したいと考えています。</p>
78	<p>2010年度に道守高校通信制単位制コースを募集停止としているが、在籍する生徒に対する学習の保障は一定期間必要。また、通信教育を希望する生徒に対応できる制度となるよう、検討を進めるべきである。</p>	<p>在籍する生徒に対する学習の保障は必要不可欠です。通信制には、単位制・2学期制を導入し、生徒の学習ニーズに対応していきます。</p>
79	<p>現在の夜間定時制はいずれも小規模校である。教科の教員が一人しかいない小規模校で、生徒が科目を自由に選択できるという単位制は可能なのか。生徒は単位制だから留年はない。3年で卒業できずに4年次にどんどんたまることにならないのか。一方、3年間で卒業することが前提で教職員が配置される。教育条件の悪化にはならないのだろうか。</p>	<p>全てを自由に選択するのではなく、ある程度の科目数の範囲で選択可能とします。受講登録のためには、シラバス(各教科の学習計画・内容を記したものを)を配付し、担任等との面接相談を通して、3年での就業が可能となるよう、生徒一人ひとりの学習を支援します。</p>
80	<p>実際に定時制を担任している教員から、「しなかったり、なだめたり、生徒を引っ張っていても、途中でやめる生徒も出てしまう。その中で、3年4年になった生徒を見ると入学時から大きく成長している」と聞く。こうした姿が本来の教育の姿ではないのか。</p> <p>定時制教育のあり方は、こうした教育をさらに充実させるにはどうすればよいのか考えることではないか。一律・機械的な制度の押しつけであってはならない。</p>	<p>現在の定時制は、様々な課題を抱える生徒の教育の場という役割を果たしており、社会や生徒の実情に応じた就学体制や教育内容の充実が必要であると考えています。</p> <p>このため、現在の就学体制の見直しや、単位制・2学期制等の導入を進めたいと考えています。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
81	<p>「計画案」は、「すべての定時制に単位制・2学期制を導入する」としている。</p> <p>単位取得を重視する考え方は、定時制教育を矮小化して捉えている。定時制教育にも、授業以外の教育活動は重要。単位制・2学期制は、集団による教育効果の弱さが指摘されている。また、様々な課題を抱える生徒にとって、単位修得を自己責任とされることで、かえって脱落することになる可能性があり、すべての学校に一律に導入する必要はない。</p>	<p>現在、定時制・通信制課程においては、従来からの「働きながら学ぶ」生徒が減少し、不登校経験者や全日制高校からの転入・編入者など様々な課題を抱える生徒が増加している現状があります。</p> <p>そうした現状に対応するために、新たな昼間制への移行、単位制の実施、2学期制の実施という方向性で就学体制を見直すこととしました。</p> <p>単位制の実施にあたっては、学級単位の活動が希薄にならないようショートホームルーム等の学級活動を毎日行うなど学年制の良い部分を生かす対応について検討を進めます。また、個々の生徒に対して適切に対応するために教育相談体制の充実を図ることとしています。</p> <p>学科、カリキュラムの編成、人員の配置等については平成21年度早々から検討を進めていきたいと考えており、また、生徒や保護者などへの周知にも努めたいと考えています。</p>
82	<p>定時制・通信制が、すべて単位制になるという案には反対である。クラスには、親や祖父母くらいの生徒さんもいて、みんなをひっぱってくれる存在だったと聞いている。</p> <p>道守には、様々な理由で(不登校や障害など)来ている生徒がいる。だからこそクラスという集団の中で育ちあうことが必要で大切なのだと思う。</p> <p>クラスをなくす単位制のみにせず、クラスのある学年制を残してほしい。机の上だけで案をつくらず、子どもによりそった計画をおねがいする。</p>	<p>単位制を導入にあたっては、クラス制のよさを生かし、学級単位の活動が希薄にならないよう、ショートホームルーム等の学級活動を毎日行うなどの対応を検討することが必要と考えております。修得した単位が、原級留置により無効にならないようにし、3年修業を希望する生徒の気持ちに応えたいと考えています。</p> <p>また、個々の生徒に対して適切に対応するために教育相談体制の充実を図ることとしています。さまざまな課題を抱えた定時制の生徒によりそった計画となるよう検討を進めます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
83	<p>単位制については、単位を落としても原級留置しないことは生徒を精神的プレッシャーから解放し、不登校を経験した生徒達にとっては登校しやすい一要因となっている面は確かにあると思うが、反面、安易に単位を落とす生徒が多いのも事実である。</p> <p>計画によれば22年度に新体制スタートとなっているが、あまりに急であり、拙速に思える。単位制の導入については、他県での実情なども踏まえながら、もっと時間をかけて吟味した上で考えなくていいのだろうか。</p> <p>また、半期ごとの単位認定や10月入学も視野に入れておられるようだが、実現するとなると多くの課題が予想される。シラバスはどう作ればいいのか？現状のままだと、後期に教科書の後半から学習し始め翌年の前期に前半を終えるといういびつな形になる。これを防ぐには前半科目と後半科目を各学期に準備することになるが、受講人数がそろうか、教員は足りるのか、時間割は組めるのか、非常に怪しい。</p> <p>進路指導に関しても、10月入学生は就職活動や進学準備の途中で卒業を迎えることになるがどういった対応をすべきと考えているのか。</p> <p>カウンセリング体制の充実等、計画には現場が望んでいる改革も含まれているが、細かなシミュレーションを行っていくと様々な問題が見えてくるように思う。</p> <p>拙速な変革を一律に押しつけることなく、現場と十分に議論を重ねた上で計画を進められることを希望する。</p>	<p>御指摘いただいた、再編整備計画案に対する疑問点の指摘や提案については、早々に検討していきたいと考えています。</p> <p>なお、定時制の定員に対する充足率が、毎年30～40パーセントであるのに対して、県下で唯一昼間・単位制をとる武生高校の定時制課程は、ここ数年、定員を超えた出願があり、生徒のニーズが高いことがうかがえます。</p> <p>このような生徒の希望にできるだけ早く、しっかりと応えていくことが大切なことだと考えています。</p>

4 再編整備の進め方について【7項目】

No.	意見の概要	県の考え方
84	<p>福井県全体の子供たちのことを最優先に考えて、子供たちが将来の夢や希望を実現できるような高校教育の充実を期待する。</p>	<p>県立高等学校の再編整備に当たっては、生徒が自ら意欲を持って学び、高い専門性が身につくよう、活力ある学校づくりを進めます。</p>
85	<p>再編によって、今後高校生となる子供たちの選択の幅が狭くなることのないよう、強く望む。今回の再編整備を契機として、福井の高校教育が全国の見本となるような特色ある制度となり、近隣県から、「高校は越境してでも福井に行きたい！」と思われる高校ばかりになることを期待する。</p>	
86	<p>伝統ある学校がなくなることは寂しいが、少子化の現状では仕方ない選択かと感じた。 単純に複数の学校をまとめるだけでなく、他県の良い例なども参考に、より生徒が充実した生活が送れる学校作りに努めてほしい。</p>	<p>再編整備に当たっては、他県の先進的な事例等を参考にして、生徒が意欲を持って学ぶことができる、地域の特色を生かした学校づくりを目指したいと考えます。</p>
87	<p>統廃合は仕方ないと思うが、生徒の目線で進めて欲しいと思う。他県の状況も見ながらより魅力ある学校にして欲しいと思う。 進路目標や習熟の程度に応じた確かな学力を培うための指導方法の工夫・改善、また、体験的な学習や問題解決的な学習の推進も重要だと思う。</p>	<p>多様な進路に対応し、生徒の意欲に基づく選択が可能となるよう、柔軟な教育課程の編成に努めるとともに、学びの一層の発展を目指す探求的・問題解決型的学習も取り入れていきたいと考えます。</p>
88	<p>生徒の能力・適正・興味・関心・進路希望等が多様化していることを踏まえ、これまでの高等学校教育の仕組みの大幅な見直し、さまざまな制度の有効活用を進める必要があると痛感している。 ぜひ、今回の案を実現し、多様な個性・能力を持った生徒に対応できるような教育環境を整備していただきたい。</p>	<p>今回の再編整備にあたっては、生徒一人ひとりがその能力や適性、興味・関心、進路等に応じて選択し、主体的に学習できるよう、総合産業高校の設置をはじめ、教育環境の整備を図っていきたいと考えています。</p>
89	<p>生徒数が減少する中、県立高校の再編に着手することはいたしかたないことだが、なくなる学校の歴史や伝統がちゃんと引き継がれていくよう、教育委員会として十分な配慮をお願いする。</p>	<p>再編整備に当たっては、それぞれの高校の歴史と伝統を大切にして、資料の保存や同窓会の在り方等を考えていきます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
90	<p>少子高齢化等時代の変化等に即応した再編計画として賛成であるが、高等学校教育については私立学校との役割分担も重要であると考え。義務教育等は別として、民間の活力を活用できる分野は、極力役割分担をして財政負担の少ない「小さな県政」を目指すべきと考える。</p>	<p>私立高校は、独自の建学精神に基づき、特色ある教育を行っています。県立高校と私立高校は、今後とも切磋琢磨しながら特色ある教育活動を推進し、福井県の教育向上を図ることが必要であり、県立高校の再編整備に当たっても、生徒の進路希望等を踏まえながら、私立高校の状況にも十分配慮することが必要と考えています。</p>

5 再編整備の実施について【2項目】

No.	意見の概要	県の考え方
91	<p>「第1次案、第2次案、第3次案」による全県各地区で一律機械的に再編・統廃合を強行するのはきわめて乱暴で、必然性がない。奥越以外の地域では全体として今後の生徒減少傾向はみられるものの、とうてい再編統廃合が必要な数とはいえない。学級定員減と大規模校の学級減で十分対応できる状況であり、きわめて乱暴な計画であると言わざるを得ない。また、その時期も早急に差し迫った問題でないにもかかわらず、拙速に「結論先にありき」で押しつけていることも重大な問題である。</p> <p>地域には地域の教育事情や住民要求、産業実態などがあり、学校は言うまでもなく地域の財産である。このような強引な再編統廃合計画は撤回すべきである。</p>	<p>地域に高校が存在することで、高校が地域振興に寄与しているという面が大きいことは承知しておりますが、高校は本来、生徒たちの教育のためにあるものです。</p> <p>生徒たちにとってどのような高校教育環境を整えていくのが最も良いのかという、生徒に対する教育効果の視点を重視し、著しい小児化とそれに伴う高校の小規模化という状況変化の中、高校段階で求められる教育環境をしっかりと確保していくため、県立高校の再編整備を進めたいと考えています。</p> <p>また、再編整備は、地区ごとの生徒数の減少傾向等も見据えながら、段階的に実施していきたいと考えています。</p>
92	<p>高問協答申では、嶺南地区を2015年度、坂井・福井地区2018年度、丹南地区2020年度を見据えた学校配置となっていた。</p> <p>しかし、「計画案」では、嶺南、坂井・福井地区2013年度とし、1学年3学級以下の学校がある地域から統廃合を進めるとされた。「再編整備」の必要性で少子化を理由にあげていたが、生徒数の推移に関係なく「学校規模」を理由に「統廃合」を早めることはやめるべきである。</p>	

II 県立高等学校再編整備 第1次実施計画について

1 奥越地区の全日制高校の再編整備について【23項目】

No.	意見の概要	県の考え方
93	奥越の総合産業高校が2011年4月開校であることを考えると、現中学校1年生の進路指導を始める2009年度には編成後の3校各学科の詳細が分かっておらなければ勧めることができない。定員だけでなく、学科の特徴やビジョン、カリキュラム編成などの詳細情報を早急に公開してほしい。	総合産業高校のカリキュラムの概要等については、来年度のできるだけ早い時期に作成し、生徒、保護者等への周知に努めたいと考えます。
94	奥越地区の再編では、大野・勝山両市にまたがる広域的な再編となるため、通学の利便性確保が大きな課題となるように思う。スクールバスのみならず、公共交通機関との連携が必要であろうと考える。また、全県1区となっていることを鑑みると、県下全域の交通ネットワークの整備があつてこそ、再編の目的が果たせるのではないか。	現在も、大野・勝山間の路線バスを利用して、両市の高校に通学している生徒が100名程度いますが、これまでのところ通学に必要な便は確保されていると考えています。 しかしながら、再編整備を進めるにあたっては、生徒の通学に支障をきたすことがないように、路線バスの増便など公共交通機関の利便性向上を働きかけます。
95	勝山～大野間の交通機関が十分でない。特に勝山の生徒にとっての通学負担が増すことのないよう、スクールバス運行などの措置を求める。勝山市北部には、福井市内への運賃のほうが安い地域もあり、福井市内への流出傾向に拍車がかかる。	
96	勝山南がなくなり大野東に統合されることとなっているが、勝山から大野に通う高校生の交通手段を、教育委員会は責任をもって確保すべき。 先日の新聞には、路線バスの活用を検討すると書いてあったが、学校の始業や終業時間に合わせたダイヤの編成にバス会社は本当に応じてくれるのか。小浜水産高校に通う高校生の中には、交通の便が悪く、始業1時間前に学校に入らないと、次の便では遅刻になってしまい、結局、学校に行かなくなった生徒がいたと聞いている。 行政の都合で再編を進めるのだから、高校生の通学の足の確保は万全なものをお願いする。	

No.	意見の概要	県の考え方
97	<p>本県においても高等学校の再編は避けて通れない問題だと思う。当面は奥越地域を中心に学校再編が進むようだが、当地区の生徒や保護者にとって納得のいくような計画をお願いする。</p>	<p>生徒から選ばれる魅力ある高校を目指し、教育課程の多様化・弾力化、地域の特性を生かした教育活動の展開、部活動の活性化等、特色ある学校づくりへの取組みを充実・強化していく必要があると考えています。</p>
98	<p>高校側の努力として、魅力のある高校づくりが必要である。</p>	
99	<p>建設関係の学科がなくなるが、地元での就職の願いがかなえられるような学科にしてほしい。</p>	<p>工業系の学科は、工業の基礎的分野であり、基盤となる機械科と電気科を設置します。</p> <p>また、商業系の学科は、商業教育の基礎とともに、奥越地域の産業・観光振興についても学べる学科を設置します。</p> <p>さらに、生活福祉系の学科は、地元の関係機関と連携を図り、調理師や介護福祉士等の資格取得にも対応できる学科を設置します。</p>
100	<p>福祉系の学科などでは、特に国家資格をとるために専門的に養成する必要がある、総合産業学科の中で選択自由なものとするのは実情にそぐわない。</p>	<p>総合産業高校においても、まず、基本は専門学科を究めることと考えています。</p> <p>こうした考え方のもと、様々な資格取得にも対応できる教育体制を整備したいと考えています。</p>
101	<p>高校進学時に奥越に繋ぎ止めたとしても、就職段階で奥越地域外に出て行ってしまいそこで定住してしまうのなら根本的な解決にはならない。大局的にみると、仕事をする場の確保や定住を促す政策が奥越地域全体の課題である。</p>	<p>奥越の総合産業高校の大きな役割の一つは、奥越地域に根ざす人材の育成ですが、そのための雇用の確保や定住促進の重要性は御指摘のとおりであり、県や地域全体の問題として考えていく必要があると考えます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
102	<p>予算等の問題があると思うが、障害児教育にも力を入れていただき、奥越地域に特別支援学校の設置の検討を是非願います。</p>	<p>県では、奥越地区養護学校の早期開設が重要であることは十分認識しており、これまでも、大野・勝山両市から強い設置要望を受けております。</p> <p>養護学校の設置に当たって、新たに用地を求める場合は、用地交渉・造成などで膨大な時間やコストが必要となります。</p> <p>また、平成14年5月に策定した「奥越地区養護学校(仮称)基本構想」においては、養護学校の設置に当たっては、県立学校の地域バランスに配慮することが明示されています。</p>
103	<p>奥越地域の高校再編整備計画について、4校を3校にして、統廃合した高校の跡地を養護学校にするのではないかと話があるが、これでは、養護学校の新設は、ますます遅れてしまう。高校の再編整備計画と切り離して、早急に奥越に養護学校を新設すべきである。</p>	<p>さらに、これからの特別支援学校は、市街の中心にあり、小中学校等との交流がしやすいなど、生徒の社会的自立に望ましい学習環境にあることが求められています。</p> <p>こうしたことから、教育委員会においては、今回の高校再編整備に合わせ、勝山南高校の敷地、設備等を利活用して養護学校を設置する方向で検討したいと考えています。</p>
104	<p>今の養護学校高等部の学習内容の見直しが必要だと思っている。今後奥越に養護学校ができるのであれば、軽度の発達・学習障がいの子ども達への幅広い学科を設け、就職・専門学校(大学も含め)など進路に向けての充実した内容の学習ができるよう願っている。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
105	<p>高校においても特別な支援を必要とする生徒への対応が求められている。定時制・通信制の今後の方向性の中では述べられているが、それでは不十分である。全日制高校での対応を検討していくべきである。</p>	<p>学校教育法が改正され、平成19年度から高等学校においても、発達障害など障害のある生徒に適切な支援をすることが明記されました。</p> <p>そのため、基本的には学習障害など発達障害の生徒は、高等学校で学ぶべきであると考えます。</p> <p>県では、全ての高等学校において校内委員会を設置するとともに、特別支援教育コーディネーターを指名し、障害のある生徒を支援する体制を整えているところです。まだ、2年目ですので十分とは言えませんが、管理職を始めとする全ての教職員の研修を行うなど、特別支援教育に対する理解を図っているところです。</p>
106	<p>先ごろ大野東と勝山南高校の統廃合の記事を知った。そこに是非とも特別支援教室を備えた学級の創設を要望する。そして下記の配慮ならびに要望を付け加える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入試の条件の緩和 学力診断によりことより中学の特別支援教室からの推薦と面接に重点をお願いする。 2 ゆるやかな単位の履修をお願いする。 3 より実践的な商業的、技術的な科目をお願いする。 4 この支援教室入学者用の寄宿舎の整備 5 他の健常児との交流は部活も含めて同じようをお願いする。 6 卒業後の就職先の確保 	<p>また、高等学校卒業後の進路を保障するため、発達障害高校生進路指導研究会を立ち上げ、支援を始めているところです。</p> <p>ただ、発達障害の生徒が、不適応など「2次障害」を引き起こした場合には、病弱の養護学校が対象となることが考えられます。</p> <p>高等学校における特別支援学級は、まだ大阪などごく一部で試行的に開設されているだけで、その学級規模などを含め、まだまだ検討の余地はあると思われます。</p> <p>本県では、現在、奥越地区の特別支援学校の新設を検討している段階であり、その中で、知的障害だけでなく、肢体不自由、病弱など幅広い生徒を対象とする予定です。</p> <p>また進路指導に当たっては、生徒一人ひとりの適性を見極め、大学への進学や、一般就労が可能な教育課程の編成と支援を行います。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
107	<p>2011年に総合産業高校の開校という予定だが、生徒数の推移を見れば数年は余裕があるのではないか。その間に、勝山南と大野東を総合産業高校にするのがよいのか、勝山と大野それぞれで普通教育と職業教育を保障していくのか、さらには大野高校の定時制を含めて高校教育のあり方を考えるなど、現場、保護者を含め地域全体で議論すると良いのではないか。</p>	<p>現状の奥越4高校の小規模化、学級数や生徒数の減少を考慮すると、学校の活力の向上を図る観点から、できるだけ早く再編整備が必要と考えます。</p> <p>また、平成21年2月議会においては、奥越地区の再編整備について、「定員だけでなく、学科の特徴やカリキュラム編成など、詳細な情報を早急に公開してほしいという要望が、奥越の8中学校・4高校の教職員の声である」との御指摘もいただいております。</p> <p>今後、具体的内容について、できるだけ早くお示しできるよう、準備を進めていきます。</p>
108	<p>奥越地区では総合産業高校しかなく、福井地区まで行かないと拠点校で学ぶ場が保障されていない。さらに、勝山地区には職業教育を学ぶ場が一切なくなる。勝山高校の「情報コース」も進学が前提の普通教科中心であると聞いている。</p> <p>中卒生や志望者が少なくとも、職業科希望者がいる限り、その地区で学ぶ場を保障することは必要で、勝山高校には商業科などの職業学科も併設すべきである。</p>	<p>奥越地区においては、再編整備後、県立高校は、普通科系2校、職業系1校の配置となります。</p> <p>全体の傾向として、大学・専修学校等に進学する生徒の率が上昇し、就職する生徒の率は徐々に下降しています。</p> <p>職業系専門分野においては、専門分野を深く学ぶことができる体制や、幅広い専門的知識・技術を学ぶことができる体制を整え、職業教育の充実を図る必要があります。</p> <p>普通科、普通系専門学科は、生徒の進学希望のニーズに対応し、進路を支援する体制の充実が必要となっています。今後とも、普通系学科と職業系専門学科の両方の充実を図ることが必要です。</p>
109	<p>以前の高校再編の議論では、大野東と勝山南の統廃合ではなく、勝山と勝山南の統廃合であったにもかかわらず、今回の計画が変更されたことについて十分な検証と説明や議論の場の保障が全くされていない。たとえば、卒業生の地元定着率・地域の担い手など勝山市の発展やまちづくりの観点からいっても地域衰退につながるという点で大きな禍根を残す。</p>	<p>なお、勝山・大野間における通学の利便性の向上には、十分配慮していく必要があると考えています。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
110	<p>奥越4校を単純に1学級30人の少人数学級とすれば18学級となる。奥越以外へ出願している生徒もいるから、学校間の調整は困難かも知れないが、奥越の4校体制は維持可能と思われる。</p>	<p>奥越地区は、県内で最も生徒数の減少傾向が著しく、今後も学級数や定員数の削減で対応することは困難と考えています。</p> <p>また、学校の活力維持、十分な教育効果の発揮という観点から、学級規模については、普通科は1学級当たり36人程度、その他の学科は30～35人程度が望ましく、学校規模については、1学年あたり4～8学級程度が望ましいと考えています。</p>
111	<p>「計画案」では、勝山高校に大学進学を前提にした「情報コース」が設置されるが、勝山市には職業教育を受ける場がなくなる。また、奥越地域で建設・土木を学ぶことができなくなる。これは、地域住民の思いや産業界の要望を踏まえているとは到底思えない。</p>	<p>勝山市では、「歯磨きロボットコンテスト」、「ロボット国際競技大会WRO」などの高度な科学技術に触れる大会等が開催されており、児童・生徒のロボット工学などの最先端情報科学技術への関心は高まっています。</p> <p>このことを踏まえ、地域との連携を考慮しつつ、勝山高校の普通科に、将来の情報社会に主体的に対応できる人材の育成のために、高度な情報科学の基礎学力の育成を目的とする「情報コース」を設置したいと考えています。</p> <p>また、大野東高校の情報・建設科は1学年1学級規模ですが、現在の志望状況や、中学校卒業生数の減少傾向を考えると、今後学科そのものが成り立たなくなる恐れがあります。</p> <p>奥越地区の総合産業高校においては、現在の大野東・勝山南高校の卒業生の進学先、就職先の状況も踏まえ、工業科については、基本となる機械科、電気科を設置したいと考えています。</p>
112	<p>奥越になくなってしまった商業科の復活を望む。昔のように大野にも商業科があればと残念に思う。</p>	<p>再編整備計画では、奥越の総合産業高校においては、商業系の学科として、流通・販売・情報等の商業教育の基礎とともに、地域の産業・観光振興についても学ぶ「総合ビジネス科(仮称)」を新設する予定です。</p>
113	<p>現在、奥越には農業科がない。そこで福祉や農業など幅広い学科を取り入れ、グリーゼン子どもや不登校児も受け入れられる特色ある新しい学校づくりを要望する。</p>	<p>再編計画における総合産業高校は、奥越の既存の職業系専門学科の配置等を踏まえ、地域の期待に応える学科構成にしたいと考えています。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
114	<p>2011年3月に勝山市で卒業する中学生は、243名と見込まれている。しかし、「計画案」では、この年の勝山市における全日制高校の定員を180人としている。これでは、勝山で学ぶことを希望しても、4人に1人が市外に出ざるを得ない状況となる。定時制を含めた奥越全体の充足率も低く、奥越から福井などへの遠距離通学を強いられる子どもがさらに増えることが予想される。</p> <p>勝山市民から「この計画案では、将来的に勝山高校がなくなる」との不安の声もある。2011年度の再編整備実施に固執せず、地域や学校関係者と十分協議し、奥越の高校の在り方について決めるべきである。</p>	<p>奥越地区からも、他学区の職業系高校や私立高校にも多数の生徒が通学しています。校風や学科、部活動などに魅力を感じてのことと推測されますが、次世代を切りひらく新しい魅力のある県立高校を、少しでも早く教職員、保護者、地域の方々の御協力をいただきながら整備していきたいと考えています。そして、奥越地区の高校の再編整備が、今後の県下各地区の再編整備の良きモデルとなるようにしたいと考えています。</p> <p>また平成20年3月の勝山市内の中学校卒業生数は270人で、このうち、勝山市内の2高校への入学者数は、177人です。さらに、約30人が大野市内の2校で学んでおり、また、他学区の私立高校、高等専門学校、県立の普通科、職業系専門高校へも約50人が進学しています。再編整備に当たり、地元の高校で学ぶ意欲の高い生徒に対しては、定員数を含め十分な配慮をしていきたいと考えます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
115	<p>勝山南高校の存在意義は十分なものがある。現在、新入生の20%近くという高率で中学で不登校だった生徒がおり、ほぼ教室へ入れなかったという生徒も何人かいる。そして、そのうち90%以上が、皆勤に近い形で適応している。これは勝山南高校がそれに対応するノウハウを積み重ねて来た貴重な財産と、教職員のチームがあるからである。</p> <p>不登校、侵害、特別支援という、現代的には最も社会問題となっている事象に対する分析対応が、高問協ではすっぽりと抜け落ちている。現代的な問題に答えていない再編案は、その責任を問われてしかるべきだと思われる。</p> <p>全県1区へ学区制が廃止されたときから、奥越から福井へ生徒が流出することは、制度として保護者の心理をあおり、福井市中心の流れを作った。生徒数が少ない以上に、福井の流出が多いことが、奥越の高校への入学者を減らしている。</p> <p>しかも、今後拠点校と、全国的に失敗している総合産業高校でおぎなりの職業科を設置しようとしていることは、ますます奥越から人を減らし、産業と地域を衰退させ、ひいては奥越地域そのものをつぶしていく施策にほかならない。</p>	<p>奥越地区は、県内の4地区のうち学校の小規模化が最も進んでいます。また、高等専門学校や私立高校、旧他学区の職業系専門高校へもかなりの生徒が進学しています。今後の生徒数減少の趨勢に、学級数や定員数の削減で対応することは困難と考えられ、また、これまで以上に、中学生が地元の高校を目指すよう、魅力ある高校をつくっていくことが、再編整備で求められていると考えます。</p> <p>奥越地区の再編整備を進めるにあたっては、職業系専門学科を志望する生徒が、自ら進んで学ぶことができる高校づくりを目指していきたいと考えています。</p> <p>もちろん、御指摘の不登校等の問題については、勝山南高校でのノウハウも十分生かして対処していく必要があると考えます。</p>

Ⅲその他計画案全般について【12項目】

No.	意見の概要	県の考え方
116	<p>このような計画が、私の手元に届いたのは全くの偶然だった。このような計画は、中学生をもつ保護者には、伝えないことになっているのか。また、どのような広報をしていたのか。アンケートやこのようなコメントをとる活動はしたのか。</p>	<p>パブリックコメント募集に当たっては、記者発表による広報、「県からのお知らせ」(新聞掲載)による告知、県政情報センター(県庁1階)および地区県政情報コーナー(県の各合同庁舎)への計画案の設置などを通して、広く周知に努めました。</p> <p>また、計画案は、教育委員会のホームページからも閲覧もできるようにしております。</p>
117	<p>「近年、少子・高齢化の進展や産業構造・就業構造の急激な変化が進む中、高校教育においても、社会からの期待や生徒の多様化に対応するため、新しい在り方が求められています。」とあるが、新しい在り方とは、どのような方面から、求められているのか。</p>	<p>大学等への進学志向の高まり、営業や経理関係の求職の減少、第一次産業に就く生徒も少なくなるなど、職業系専門学科の在り方と生徒の進路との関係が薄くなっています。平成19年12月から20年10月にかけて8回にわたって開かれた高問協でも、こうしたことへの対応の必要性が強調されております。</p> <p>また、急速な少子化が進む中、ほとんどの都道府県において、公立高校の再編整備に取り組んでいます。今や、高校の再編整備は、全国的な課題です。</p>
118	<p>「また、現在、多くの都道府県において、高校の再編整備計画の策定ないしは基本的方向の公表がなされており、」とあるが、他の県や自治体に合わせるのが教育か。福井県の独自の考えではないのか。</p>	<p>こうした中、特色ある学科再編を計画し、また、県内各地の実情を踏まえるとともに、地元産業の担い手の育成や社会の新しいニーズに対応するため、本県の特色を生かした新しい県立高校の在り方について検討していきたいと考えています。</p>
119	<p>これからの時代は、専門的な経験が問われる時代になりつつある。総合大学よりも、より専門的な技術が学べ、社会に出ても、その分野で、即戦力になる人材を求める時代になりつつあると思う。</p> <p>県には、独自の時代予想の分析があると思う。その研究結果により、今回の時代のニーズにあった人材教育の環境づくりをしておられると思うが、県では、どのような時代分析をしているのか。</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
120	<p>福井県の中等教育のレベルは全国的に見て、決して高くはなく、レベルアップは喫緊の課題だと考える。今回の高校再編を機に、高等教育につながる前期中等教育、後期中等教育の大改革をぜひ断行していただきたいと思う。</p>	<p>今年度の「全国学力・学習状況調査」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、本県の小・中学生はトップクラスの結果を収めております。</p> <p>高等学校においても、本県生徒の国公立大学への進学率の高さなどをみると、子どもたちの総合的な学力の高さは、継承されていると考えております。</p>
121	<p>福井県は小中学校の学力が全国で1・2位と伺っているが、現行の福井の高校教育ではそのレベルが維持できていないように感じる。全国に誇る「福井の義務教育」で培われた学力を、更に大きく伸ばすような「福井の高校教育」の礎となる再編となるよう期待している。</p>	<p>今後、更なる総合的な学力の向上を図るとともに、児童・生徒一人ひとりの「生きる力」を育むことができるよう、再編整備をはじめ、より良い教育環境づくりに努めます。</p>
122	<p>諸般の事情や問題点解決のために全国的な流れに乗って、県立高等学校再編整備を実施することはやむをえないと理解するが、これだけ大掛かりな再編を実施するのだから、「教員の資質向上」がより重要になるのではないかと思う。「教育は人なり」という観点から具体的施策が記述されていないのが残念である。</p>	<p>県立高等学校再編整備にあたっては、ご指摘のとおり未来を担う高校生のための高校教育の向上が何より大切であり、そのためには、教員の資質向上が極めて重要であると考えています。今後とも、時代の変化に対応し、研修機能を強化するなど、教員の資質向上に努めていきたいと考えています。</p>
123	<p>全体を通して、建築物を建設するような文脈でハード面は設計されているが、ソフト面について具体的記述がなく、父兄・生徒に負担を求めているような印象を受けた。概要だから仕方がないのかも知れないが、実施前に保護者の方々等と十分詳細説明を行う必要があると思う。</p>	<p>再編整備に当たっては、生徒や保護者をはじめとする関係者の方々に対して、学科の特徴やカリキュラム編成等などの詳細な情報を早急にお伝えする必要があると考えています。</p> <p>今後、こうした内容についてできるだけ早くお示しできるよう、準備を進めていきます。</p>

No.	意見の概要	県の考え方
124	<p>生徒数がどんなに減っても、あるいは1学年が2学級以下になっても、現在の高校をすべて存続させようとは県民の誰もが思わないだろう。しかし、今回の再編計画は、小規模校で教育的効果が薄い、生徒が減るから何年後に募集停止で総合産業高校に、という方針が上から押しつけられている。</p> <p>生徒減少の中で何年までは少人数学級を進めながら現在の体制が存続できます、それまでは生徒の教育活動に責任を持ってあたってください、その後のことは時間をかけて現場や保護者、地域の意見を十分聞いて考えていきましょう、という姿勢であるべきではないか。</p>	<p>県立高校の再編整備は、10年以上前から課題であり、さまざまな形で問題点が指摘されてきました。</p> <p>本県の全日制高校の配置体制(29校1分校)は、昭和62年の武生東高校の開校、平成3年の三国高校川西分校の廃止以来継続しており、この間、中学校卒業者数は平成元年3月をピークに減少を続け、平成20年3月には、ピーク時の約4割の減少となりました。生徒の減少だけから再編整備を考えているわけではありませんが、このことも、再編整備が急がれる理由のひとつです。</p> <p>これまで、広く県民の皆様に「県立高等学校の目指すべき方向性」を理解していただくため、平成19年12月から8回にわたり開かれた高問協においても、各界各層の委員の方々に議論していただき、また、小中学校・高校の校長会長、職員団体の代表、高校の定時制部会長にオブザーバーとして参加していただきました。</p> <p>会議は公開され、その都度、新聞などで内容が報道されており、議事録や配布資料については、教育委員会のホームページ上でその都度公表しております。また、「福井県産業教育審議会」や県議会でも議論がなされています。</p> <p>また、今回実施したパブリックコメント募集に当たっては、100人近い方々から、高校再編整備についての様々なご意見をいただきました。</p> <p>今後、こうした御意見等を十分に踏まえながら、県民の皆様と一緒にすばらしい福井の高等学校教育を築いていきたいと考えています。</p>
125	<p>高問協答申を受けて、県教委は再編計画案を非公開で検討してきた。検討に加わった委員には現場教員も多数含まれていたと予想するが、どんな議論が行われたのかは全く分からない。現場で知恵を出しながら議論し、保護者や地域の意見をふまえ、理解も得ていくオープンな議論をすべきではないか。</p>	<p>これまで、広く県民の皆様に「県立高等学校の目指すべき方向性」を理解していただくため、平成19年12月から8回にわたり開かれた高問協においても、各界各層の委員の方々に議論していただき、また、小中学校・高校の校長会長、職員団体の代表、高校の定時制部会長にオブザーバーとして参加していただきました。</p> <p>会議は公開され、その都度、新聞などで内容が報道されており、議事録や配布資料については、教育委員会のホームページ上でその都度公表しております。また、「福井県産業教育審議会」や県議会でも議論がなされています。</p> <p>また、今回実施したパブリックコメント募集に当たっては、100人近い方々から、高校再編整備についての様々なご意見をいただきました。</p> <p>今後、こうした御意見等を十分に踏まえながら、県民の皆様と一緒にすばらしい福井の高等学校教育を築いていきたいと考えています。</p>
126	<p>一部の関係者で非公開に計画案が拙速にまとめられ、地域住民や学校現場の意見を聞かず、説明すらない。</p> <p>教育は財政効率や市場経済的な競争原理で議論されるのではなく、憲法で保障されたどの子にも等しく教育を受ける権利を保障するという観点で議論され、行政は条件整備のための政策を進めるべきである。</p> <p>また、全国的な再編統廃合に迎合することによってこれまで積み重ね築いてきた福井の教育・文化・スポーツを衰退させることなく、学力や体力など全国に誇る教育県福井にふさわしい独自の高校政策を思い切ってすすめられるよう県の英断を期待したい。</p>	<p>会議は公開され、その都度、新聞などで内容が報道されており、議事録や配布資料については、教育委員会のホームページ上でその都度公表しております。また、「福井県産業教育審議会」や県議会でも議論がなされています。</p> <p>また、今回実施したパブリックコメント募集に当たっては、100人近い方々から、高校再編整備についての様々なご意見をいただきました。</p> <p>今後、こうした御意見等を十分に踏まえながら、県民の皆様と一緒にすばらしい福井の高等学校教育を築いていきたいと考えています。</p>
127	<p>県立高等学校は、県民の財産である。しかし、県民の声を聞かず、学校現場や地域の意</p>	

No.	意見の概要	県の考え方
	<p>見集約もないまま「計画案」が公表された。</p> <p>さらに短時間で十分周知されていないパブリックコメントにより県民から意見を聞いたとして計画を決定することは、乱暴なやり方と言わざるを得ない。</p> <p>まず、「計画(案)」を撤回し、地域での公聴会、懇話会などを開催して幅広く意見を聞き、合意を得ながら進めることを求める。</p>	